



# Bーぐる沿線協議会ニュース

第3号

平成23年11月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 文京区区民課コミュニティバス担当 03-5803-1387

## Bーぐる利用者、二年連続で50万人を突破

最初にBーぐるを運行する日立自動車交通株の横溝委員と事務局(区)から平成22年度Bーぐる事業報告が行われました。

これによると、平成22年度一年間の利用者数は約51万人(一日当たり1,397人)で前年度とほぼ同じ人数でした。収支については営業収入に対し営業経費が420万円上回る赤字となり、不足分が区からの補助金で賄われました。昨年度と比べ金額では約60万円の増加、補填率(営業経費に占める補助額の割合)も6.8%と0.8ポイント上昇しまし

た。これは広告料等の伸びで営業収入が増加したものの、燃油代の高騰や車両の老朽化に伴う修繕費等で増加した営業経費を吸収しきれなかったためと説明がありました。

今年3月の東日本大震災の影響(3月17日から6日間、減便運行)を考慮しても利用者数に頭打ちの傾向がみられるなど、Bーぐるが区民の「日常の足」として定着していく一方で、何か新しい役割を担っていくことも期待されています。

過去3ヶ年のBーぐるの事業収支実績

区分	20年度	21年度	22年度	備考
利用者数	49万6千人	51万人	51万人	年間累計
	1,360人	1,396人	1,397人	一日当たり
営業収入	5,580万円	5,680万円	5,780万円	運賃+協賛金+広告料
営業経費	6,380万円	6,040万円	6,200万円	
補助金額	800万円	360万円	420万円	予算の範囲内で全額区が補填
補填率	12.5%	6.0%	6.8%	補助金額÷営業経費
営業係数	114	106	107	100円の収入を得るための経費

## 新しい公共検討分科会案を承認、最終とりまとめへ

本年5月に設置された新しい公共検討分科会からこれまでの作業報告が行われ、分科会副会長の佐藤委員が市民活動の専門家の立場から、現在東京都が募集している「新しい公共支援事業」の主旨と本協議会が応募する事業の内容について説明しました。

分科会では、Bーぐる沿線の新しいコミュニティの創出をテーマに具体的な活動を起こすことを目標に、Bーぐるが沿線地域の団体(町会、商店会、高齢者クラブ、NPO等)や公共施設(小学校、福祉施設等)をつなぐ場や機会を提供し、「つながり」を

つくる役割を果たすことによって、沿線地域の良好なコミュニティの形成につなげていく事業のほか、継続的に事業を行う組織として自立できるよう、沿



線企業・商店からの広告収入、キャラクター商品の開発販売、サポーター会員制度の組織化等、活動基盤の強化を図る事業を進めるとしています。

またこれを実現するため、車内マルチビジョンの設置、沿線の施設・商店街等と連携したイベントの開催、法人化に向けた会員組織の設立準備等、具体的な事業内容が盛り込まれています。

参加した委員からは、車内マルチビジョンに関して「スポンサー集めを考えるならば、どのような人がBーぐるを利用しているかをきちんと把握しておく必要がある」、「車内マルチビジョンで放映するコンテンツが重要。補助金終了後も継続できる体制をつくるように」といった意見、またイベントの開催に関しては「コミュニティバスを運行している台東区で地元の警察と協力して幼稚園児向けの交通安全教室を開催したところ評判がよかった（横溝委員）」といった意見が出されました。

Bーぐるがきっかけとなり沿線住民とBーぐる利用者の交流を生み、沿線地域の活性化につなげていくという方針と具体的な事業内容が全会一致で承認され、11月中旬の提出に向け最終とりまとめに入る予定です。

## 委員から出された意見

### 車内マルチビジョンの活用

- スポンサー集めを考えるならば、どのような人がBーぐるを利用しているかをきちんと把握しておく必要がある
- 車内マルチビジョンで放映するコンテンツが重要。補助金終了後も継続できる体制をつくるように
- 情報を流すだけでなく、乗っている人からの働きかけもできるような仕組みを取り入れたい

### 沿線の施設や商店街と連携したイベントの開催

- プラスワン！の協力店も利用実績もまだまだ少ない。プラスワン！事業の定着と発展のために、協議会活動の中で積極的に取り組んでほしい
- 地元の警察と協力して、コミュニティバスを利用した幼稚園児向けの交通安全教室を開催したところ評判がよかった

## 文京ボラセンまつりにBーぐるcafeを出店

佐藤委員が中心となり協議会の有志メンバーが11月19日に文京区民センターで開催される文京ボランティア・市民活動まつりに「Bーぐるcafe」を出店し、コミュニティバスの情報発信と協議会活動を広報したいとの報告があり、承認されました。

また饗場委員からは、7月から開始された義援金付き一日乗車券が累計で129枚販売され、とくに9月はテレビ東京の情報番組で紹介されたこともあり1ヶ月で92枚を売り上げた。文京区では当初9月末としていた義援金の受付を3月末まで延長したため、9月以降の売上げも引き続き区を寄付先とすることが報告されました。

事務局からは、水道橋駅方面へ文京シビックセンターで乗り換えなしで利用できるように起終点を6番ラクーアに変更、11月1日から実施することが報告され、閉会となりました。

月	7月	8月	9月	合計
販売枚数	14枚	23枚	92枚	129枚



300円のうち100円が義援金として寄付される

### 編集後記

交通不便地域を解消するコミュニティバスとしてスタートしたBーぐるでしたが、沿線協議会の発足後は沿線地域や周囲の人たちを巻き込みながら、だんだん活動の輪が広がっていく様子をリアルタイムで体感しています。(N)